

日本株式積極運用型特別勘定 運用状況 (2009年10月末現在)

運用方針

- 主に日本の成長企業の株式に分散投資することによって、中長期的な成長を目指します。
- 東証株価指数(TOPIX)を上回る投資成果を目指します。
- 運用にあたっては、当社が選定した複数の投資信託を組み合わせた運用を行います。なお、運用成果の向上を図るため、特別勘定で投資する投資信託については、継続的にモニタリングを行い、適宜見直しを行ってまいります。

資産内訳

	金額(千円)	構成比
投資信託	1,031,350	97.9%
現預金・その他	22,527	2.1%
合計	1,053,877	100.0%

運用状況

2009年10月の国内株式市場はTOPIX(配当込み)で前月比1.66%下落しました。鉱工業生産指数が前月比で7ヶ月連続で上昇するなど、国内景気の回復基調を示す指標が相次いだことから月の中旬にかけては上昇しました。しかし、米国で消費関連の指標が予想を下回ったことや、財政赤字への懸念から下旬にかけては下落し、日経平均は月間で98円安の10,034円となりました。このような市場環境の中、組み入れ投資信託の運用が好調であったことから、当特別勘定は0.07%の下落に留まりました。

当特別勘定では、運用方針を勘案し、グロース運用を行う投資信託を組み合わせた運用を行っています。

現在、「フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3」および「ピクテ・ニッポン・プレミア・グロース・ファンド」に投資しています。

10月は資金流入に合わせて「フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3」の購入を行いました。

11月についても、これらのファンドへの投資を継続する方針ですが、ファンドへの投資配分・入れ替えについては適宜検討します。

ユニット・プライス騰落状況

ユニット・プライス	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	過去5年	設定来
52.70849410	▲0.07%	▲2.66%	+13.80%	+9.40%	▲45.45%	▲20.32%	▲47.29%

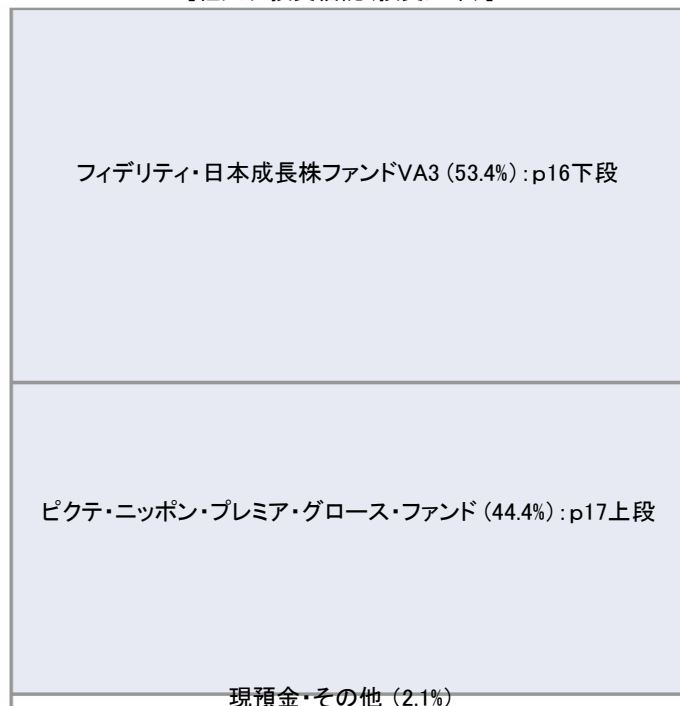
(注)ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための参考値で、特別勘定の運用を開始した時点(2001年5月1日)を「100」として数値化したものです。

ユニット・プライスの推移(運用開始日:2001年5月1日)



ポートフォリオの状況

[組み入れ投資信託(投資比率)]



(注)「p16下段」等と記載してあるのは、各投資信託の運用状況を記載しているページです。ご参照ください。

ご注意

『当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を2/27ページに掲載していますので、必ずご参照ください』

■将来の投資成果を保証するものではありません

当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。